

第1回赤磐市まちづくり審議会会議録

日時：令和6年8月1日（木）午前10時開会 正午閉会

場所：赤坂健康管理センター 多目的ホール

1 開会

略

2 市長挨拶

皆様、おはようございます。

まちづくり審議会では、皆様からご意見をお伺いして計画に反映していければと思っております。その上で、このまちづくり審議会の組織を一新しまして、今回が事実上初めての顔合わせとなるかと思えます。どうかよろしくお願い致します。

そうして、皆様でご議論いただいた上で、赤磐市の第3次総合計画が作成されます。

振り返れば10年前に人口減少と言われていましたが、この様にすさまじいスピードで世の中が人口減少、少子化、高齢化することは、現実のものとしてなかなか受け入れることが出来ない事態となっております。

また、第2次総合計画の期間中には、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行しました。これは、社会全体国際社会において大きな傷跡を残しています。こういったことを今後の計画期間中に予測できるかと言われればそれは不可能です。

しかし、第2次総合計画では、各方面の柱をきちっと作り上げました。それは、第1次総合計画を踏襲するものでありますが、時代の流れとともに移り変わってきたものを、柔軟に実施していくことで迷いながらも前に進んできております。

このことから、今後8年間の総合計画の作成に当たっては、世の中で何があってもこの柱を大事にするのだという赤磐市が目指す柱を皆さんの手で作成していただければと思っております。

市としては、皆さんが作成していただいた柱をもとに、実施計画等によりこの柱を実現するための各種の施策を作り上げていこうという思いで臨んでまいります。

次期総合計画を作るのが、今後の赤磐市、私達の子供、あるいは孫、さらにその次の世代に送れる素晴らしい贈り物としていきたいと思っております。

皆さん同じ気持ちだと思いますが、皆さんの英知を結集していただき、より良い次期総合計画の策定を進めていければと思います。

どうもありがとうございました。

3 委嘱状交付

略

4 委員の紹介（自己紹介）

略

5 会長及び副会長の専任

事務局： 審議会条例第5条に基づく会長及び副会長の選出に移りたいと思います。会長及び副会長の選出につきましては、審議会条例第5条に「会長は、学識経験のある者につき任命された委員のうちから委員の互選により定める。」「副会長は、委員の互選により定める。」と規定されておりますので、委員の皆様には会長、副会長の選出をお願いしたいと思います。決め方に関しまして委員の皆様からご意見はありますか。

事務局： 特に無いようですので事務局の案をお示しさせていただきます。まず会長について、審議会条例第5条によりまして、環太平洋大学副学長 阿部宏史様をお願いしたいと考えております。

次に副会長ですが、住民の皆様の声を行政に届けるという大変重要な役割を長年にわたって務めておられ、この度の計画においても特に住民の目線を盛り込むという点におきまして、会長の補佐をしていただける方ということで、今井哲治様をお願いするのはいかがでしょうか。

委員：(拍手)

事務局： ありがとうございます。それでは賛成ということで、会長に阿部委員、副会長に今井委員が選出されました。以後よろしくお願い致します。

諮問書交付

略

6 議事

会長： 会議に入ります前に、会議録の署名人を発表したいと思います。今回は大畑委員と大森哉絵委員をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。それでは次第に沿って議事を進めていきたいと思っております。まず、赤磐市まちづくり審議会の運営につきまして、事務局から案の説明をお願い致します。

(1) 赤磐市まちづくり審議会の運営について

事務局： 事務局より会議資料P5について説明。(以下、略)

会長： ただ今の事務局の説明に関しましてご質問、ご意見等がありますか。無ければ議決につきましては拍手でお願いしたいと思いますので宜しくお願い致します。

委員：(拍手)

会長： ありがとうございます。

(2) 総合計画、策定スケジュール等について

会 長： 続いて、総合計画、策定スケジュール等につきまして事務局から説明をお願いします。

事務局： 事務局より会議資料P7～P13について説明。（以下、略）

会 長： ありがとうございます。事務局からの説明についてご質問ご意見等ありますか。

A委員： 市民アンケートについて質問をしたいです。この調査について、「各地域、性別、年代に区分して確認したところ、多少の変化はあるものの傾向は変わらず～」と書いてありますが、結果を見ると、交通や高齢者に関係する回答が目立ちます。この結果は特定の地域や年齢層による回答が強く影響していることが考えられるため、地域や年代といった標本の属性に偏りがあるのかどうかを伺いたいです。

事務局： まず、本アンケートは全地域に対して無作為で抽出した方に送付したものですので、元々の人口や返信率で偏りは出てきています。その上で地域性ですが、桜が丘小学校区16.3%、山陽北小学校区で15.2%、山陽東小学校区で11.5%の方に返信をいただいています。また、年齢ですが、紙によるアンケートというところもありまして、回答をいただいた方の割合としては、60歳、70歳がそれぞれ約23%、約21%と比較的高齢の方の回答率が高い状況で、29歳以下が約8%と低い状況です。

A委員： ありがとうございます。

会 長： 他に何かありますか。

委 員：（質疑無し）

会 長： 総合計画の考え方とかにつきましては、これから議論していきたいと思います。

(3) 赤磐市の人口動態

会 長： それでは次の議題に移らせていただきます。赤磐市の人口動態につきましては、総合計画の基礎となる議題です。事務局からの説明をお願いします。

事務局： 事務局よりP19～P30について説明。（以下、略）

会 長： ありがとうございます。人口の動態につきまして色々とデータを用いて説明がありましたが、ご質問ご意見はありますか。

委 員：（質疑無し）

(4) グループ討議

会 長： それでは、ただ今、事務局から総合計画の全体像、策定スケジュール、人口の動態についてご説明いただきましたが、ここからは、それぞれのグループに分かれて、少しわかりにくかった点、ご質問等ございましたらぜひ議論していただきたいと思います。

その後、グループ協議で出ました質問等につきまして、報告をお願いできればと思いますので、宜しくお願いします。

委 員：（グループ内議論）

会 長： それでは、先程お願いしましたように、各グループでの議論の結果につきまして、お話いただければと思います。

B 委員： こちらのグループでは、まず、事務局から説明いただいた人口動態のことについてグループ内で話をしていたところ、グループの4人中3人が山陽団地の、しかも同じ地区に住んでいるということがわかりました。

21 ページの児童数をみると、H26 年から R6 年の 10 年間では山陽地区は意外と減っていないという印象を受けました。しかし、30 年・40 年単位で見た時に、我々の感覚では児童数は 1 割ぐらいに減っています。実際に我々が通っていたときの人数は 1,000 人を超えていたこともあり、現在の 100 人台と比較すると、8 割・9 割減っているというような体感があるため、児童数の減少は長い期間で見た場合は、問題なのではないかと思いました。

他の地域については、旧山陽町を除いた地域ですと、小学校の規模だけではなく、中学校に上がった際の生徒数の規模も縮小しており、例えば部活動がどうしても盛んに出来ないため、のびのび子供を育てようと思ったけれども、そもそも教育が充実しているのかどうかとか、友人を作れるような環境なのかどうかといったところが徐々に問題になってくるのではないかなという話になりました。

また、人口が増えていった時代に公共施設を整えてきたと思うのですが、人口減少によって空き教室、空き施設になった所を、例えば、老後の人のための活動の場所と開放すれば人付き合いがそこで広がっていくのではないかなというような提案の話もありました。

また、人口の話となると、旧町、例えば、山陽団地と桜が丘を含む山陽町と、市北では状況がかなり異なっていて、ひとまとめで赤磐市からどこに人が行っているかというのは、もう少しエリア別でも移動を確認し、問題として捉えたほうがいいのではないかなというような話がありました。

会 長： ありがとうございます。それでは一通りご意見を伺わせていただいて、それから事務局からフォローしていただければと存じます。

C 委員： こちらのグループでも、先程のグループが言われた通り、地域間の差異をより明確に出していただいた方が分かりやすいという意見はありました。実際は地域ごとに状況は異なり、例えば、山陽地域周辺は人口が集中していて利便性も高く、吉井地域と比べるとかなり格差があります。

また、地域経済循環率については、企業が赤磐市にあったとしても、その本部が市外だったら、市外の収入になるのでしょうか。会社は赤磐市内にあるが本社が赤磐市内に無い場合、赤磐市で収入があっても赤磐市では計上されないのかどうかを教えてくださいました。

A 委員： こちらのグループは、資料を見て色々意見交換をしましたが、先ほどの地域経済循環率と昼夜間人口の話で、赤磐市はベッドタウンになっているということですが、結局、市外に出て行くということをどう考えるかということだと思います。岡山市に出て行くのは、いわゆる雇用がないから出ているということが一つあるという話と、若い世代の働き方がだいぶ変わってきていて、ずっとそこで勤め続けるというよりは、必要があればすぐに転職するのが普通になってきているという話があります。あとは赤磐市の建設業の話を

しましたが、赤磐市と岡山市の建設業の企業では待遇面、働き方、在り方等が違うので、赤磐市の建設関係の企業は若者の就業先として選ばれにくいということもあるというお話がありました。個人的には赤磐市からの転出理由として、「出ていきたいから出ていく」といったもの以外に何かがあるのではないかと思えるので、それが知りたいと思いました。

その話もあり、26 ページの子ども女性比に関わりますが、なぜ出生率が増えないのかということで、収入が影響しているという話もありましたが、このグループの中には吉井地区に引っ越して来られている方もいらっしゃる、収入というよりは自然や暮らしとかを目指して来られている方もおります。もちろん、人口を増やしていくために、外から子供を呼んでくる、家族を呼んでくるという方法もありますが、収入が増えている時期でも出生率は伸び悩んでいるわけですから、子供が産まれない理由を深堀りして、それがどういことなのかを考える必要があるのではないかと。そういった話がありました。

会 長： それでは、各グループから、ご質問ご提案がございましたが、事務局からまとめてお答えください。

事務局： ありがとうございます。地域経済循環率が少し得体のしれない図表であったりするので、ご質問が多かったと思いました。まず、「本社が赤磐市にあるかどうかによって変わってくるのでは」、というご質問については、確認をさせていただき、また改めてご報告させていただきます。

小学校区毎の生徒数、児童数をお示しさせていただいていますが、中学校区単位でのものも今後お示していきたいと思えます。

また、空き教室等を市民開放して利用できればとのご提案につきましては、今後、実施計画等でも盛り込んでいければと思っております。

それから赤磐市内での地域間での分析の掘り下げについては、事務局としても必要であると考えております。今後、地域間でもデータの分析をさせていただき、次回にお示しさせていただきたいと思えます。

それから出生率等について、子供が産まれないことについては、おそらく色々な要因があると思えますが、次回にもう少し深堀りしたデータをご提示させていただければと思っております。

色々ご意見いただきまして、ありがとうございます。グループでの意見交換のようなことを普通の審議会ではなかなかしないのですが、今回はご協力いただき、初回にも関わらず本当に様々なご意見をいただいたことに、大変ありがたく思っております。

簡単ですが事務局からは以上です。

会 長： 議論に参加させていただいて少し感じたことは、こういった総合計画策定の場合には、その自治体だけを中心にして考えるということは少し問題があるのではないかと感じております。

各委員の議論からもありましたように、もう少し広いエリアを考え当該自治体の役割がどうであるか、その上で、これから発展する方向性はどうかというものを考えていく必要がある気がしています。

事務局でも考えていただけるということですが、企業立地、経済活動を踏まえたデータの問題を見ると、赤磐市の場合は岡山市のベッドタウン型になっているところですが、高速道路のインターチェンジ周辺も拠点エリアとなっており、そういったことが十分に生かされているのか？というのを少し疑問に思っているところがあります。そのあたりも踏まえたうえで経済循環のことも議論していかなければならないと思っております。

私、個人の話になりますが、早島町の総合計画にも深く関わっております。早島町の場合は、岡山市と倉敷市の間にある大きな物流団地もあることで、企業誘致も活発に進んでいます。そういった意味で早島町の関係者と議論しますと「早島町が岡山市や倉敷市の一部になったら早島町の発展は大丈夫なのか。自立していかないといけない。」とおっしゃっております。

その様な意見を聞くと、これからの広い地域の中での赤磐市の役割を考える上での発展性というのを、議論していく必要があるのではないのかと思います。

そういったことを踏まえて、ぜひこれからの計画策定へのご協力をお願いできたらと思います。

それでは初回の審議会ということで、十分な議論も出来なかったと思いますが、今後また宜しくお願いできればと思います。

7 その他

会 長： それでは本日はこれにて議論を終了させていただき、進行を事務局にお返ししたいと思います。宜しくお願いします。

事務局： 2時間に渡りまして、こちらの会議にご参加いただきましてありがとうございます。

最後に、次第の7「その他」のご連絡です。次回の日程の案を示させていただいております。令和6年9月26日木曜日、10時から今度は赤磐市役所の3階第一会議室を借りる予定としております。ぜひ皆様ご出席していただければと思いますので、宜しくお願い致します。

8 閉会

事務局： それでは、閉会にあたりまして赤磐市教育委員会坪井教育長からご挨拶をさせていただきます。

教育長： 本日は第3次の赤磐市総合計画に向けて慎重に審議をいただきまして誠にありがとうございます。活発な議論をしていただき、本当にありがたく思っております。これから長丁場となりますので、引き続き様々な提案やご提言をいただきまして、市民の皆様にとって実効性のある計画となるようにどうかよろしくお願い申し上げます。暑い日が続きますけれども、また次回もよろしくお願い致します。ありがとうございました。

事務局： それでは、以上で第1回赤磐市まちづくり審議会を終了致します。ありがとうございました。